

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 4 2	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and fatty acid intakes in the 2001-2002 National Health and Nutrition Examination Survey. 2001-2002 年の National Health and Nutrition Examination Survey(国による健康栄養調査)における飲酒量と脂肪酸摂取量	
執筆者	
Kim SY, Breslow RA, Ahn J, Salem N Jr.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2007 Aug;31(8):1407-14.	
キーワード	
飲酒量、脂肪酸摂取、必須脂肪酸、飲み騒ぎ、NHANES、 $\omega$ -3 脂肪酸	
要 旨	
<p><b>背景:</b> 飲酒は栄養摂取に影響を及ぼすと考えられる。しかし、アメリカ合衆国の飲酒者における脂肪酸摂取についてはあまりわかっていない。</p> <p><b>方法:</b> 2001-2002 年の National Health and Nutrition Examination Survey (国による健康栄養調査) の横断研究を用い、4168 人の成人の飲酒についての自己報告と食事の脂肪酸摂取量との関係を調べた。脂肪酸の摂取については、面接者により 24 時間思い出し法(24 時間の間に食べた物を思い起こす方法)を一度行い評価した。食事の脂肪酸摂取量より、調整し、重みづけ(それぞれの脂肪酸でエネルギーを 1000kcal 消費する際に必要な各脂肪酸の g 数を計算)して「栄養分の濃度」とし、一日当たりのアルコール摂取や、飲み騒ぎの回数に応じて解析した。</p> <p><b>結果:</b> 飲酒量の増加に伴い、男性、女性ともエネルギー摂取量は増加した。女性で飲み騒ぎをする者は飲み騒ぎしない者に比べ、エネルギー摂取量は多かった。男性では、飽和脂肪酸、一価不飽和脂肪酸、多価不飽和脂肪酸、リノレン酸、<math>\alpha</math>-リノレン酸の「栄養分の濃度」は飲酒量の増加と関係していた。飲み騒ぎする男性では総飽和脂肪酸、一価不飽和脂肪酸、多価不飽和脂肪酸、リノレン酸、<math>\alpha</math>-リノレン酸、エイコサペンタ塩酸、ドコサヘキサ塩酸の摂取量が有意に減少していたが、女性ではそうした関係はみられなかった。「栄養分の濃度」を計算するときアルコールのカロリーを除外すると、こうした結果はアルコールのカロリーを含めたときと同様であったが、総飽和脂肪酸と、一価不飽和脂肪酸に関しては有意な関係ではなくなっていた。また、飲み騒ぎする回数と総多価不飽和脂肪酸、リノレン酸、<math>\alpha</math>-リノレン酸、エイコサペンタ塩酸の摂取量の間には逆相関が認められた。</p> <p><b>結論:</b> この横断研究より、アルコール摂取は必須脂肪酸摂取に影響を及ぼすということが示された。飲酒や必須脂肪酸摂取について公衆衛生学的重要さが示されているため、この 2 つの関係についての前向き研究を考慮する必要がある。</p>	